

## ティーチング・ステートメント

所属 義肢装具学科  
名前 早川 康之  
作成日 2023年3月22日

### 【責任】

大学では義肢装具士養成教育のための14科目を担当している。学生募集においては、オープンキャンパス、入試、公開講座、模擬講義などの依頼をいただき、対応している。学生の自主的活動として、夢プロジェクトや障害者スポーツチームへの参加には、運営への相談対応、当日の参加、プレゼンテーション指導などを行っている。また、本年度までは学生支援センター主任、次年度からは就職支援センター主任を務める。

一方、国内の義肢装具士養成教育の統括として、日本義肢装具教育者連絡協議会会長を6年務め、教育の基準化、臨床実習におけるハラスメント対策、就職活動方法、義肢装具士認知度の向上について検討し対応を進めた。

### 【理念】

義肢装具士は身体機能に障害を持つ方に、義肢や装具、福祉用具などの機器を適合し、生活を大きく変えることのできる国家資格である。対象となる方の障害は様々で、また、ライフスタイルも各々にあるため、同じ障害であっても必要とする機能を有する機器は全く異なることがある。本学の卒業生には、使用者の希望を取り入れ、最適な機器を適合することで、社会的責任を果たし、使用者とともに喜びを分かち合える義肢装具士になってもらうことを望んでいる。また、この技術は一般の方への支援にも役立つものであり、義肢装具士以外の活躍の場についても進めるよう就職支援を行う。

また、大学での学生生活では、様々な経験を通して、社会人になる知識を養ってもらいたい。そのためには、余暇活動も含め、充実した日々を送ってもらうことが必要と考えている。

### 【方針・方法】

理念を達成するために、学生には必要な知識や養ってもらうだけでなく、問題解決能力を育成してもらう。また、学生に余裕を持った生活を送ってもらう方法を考えている。

#### 義肢装具士国家試験に向けた対応

義肢装具士国家試験は、卒業年次の2月に実施され、合格することが最も身近な目標となる。当該試験では、義肢装具士の基本的な知識を問う問題が多いが、配点の高い実地問題では読解能力が必要となる。そのために以下の項目について実施している。

#### 方法① 事前の学習と前回授業範囲の知識の定着

講義科目では、事前の資料データ配布と、授業実施前の前回授業内容についての確認テストを行っている。狙いは、授業時間内での資料の読み込み、復習の実施による知識の定着である。この知識の定着により学習効果を高め、応用に進みやすくしている。

#### 方法② 実習による装具適合とルーブリック評価の導入

実習授業においては、装具の作製から適合までの一連の作業を体験するとともに、評価においては、評価基準を設け、項目ごとに点数化できるようにしている。特に身体への適合の際には、学生をグループ化し、各自の装具適合について、良し悪しを評価するシステムを用いており、グループ学生同士で評価項目を確認できるよう配慮している。

#### 方法③ 考える力の育成

義肢装具の適合においては、個々の使用者によってさまざまな問題が生じる。その際に、問題点を確認し原因を追究し解決するための考える能力についても、育成を行っている。実習での装具適合では、ルーブリック評価を基に問題点を確認し、不適合の際の問題点、

原因、対処方法について、考える時間を設けている。また、学生からの質問については、単に答えを与えるのではなく、可能な限り考え方について回答するようにしている。

#### 方法④ 授業時間の厳守

義肢装具士教育の従来からの習慣で、実習時間については正規以上の時間での実施が行われている。これは、できるだけ多くの実習経験をさせたいという考えからであるが、義肢装具士教育の本質はそこではなく、どれだけ良い義肢装具の適合が出来るのかという論理的な問題解決能力であり、技術は臨床経験を積むことで修得できると考える。したがって、知識定着のための自学習時間の確保や、使用者からの情報収集のためのコミュニケーション能力の育成が重要な要素である。自学習時間の担保、コミュニケーション能力育成のためのクラブ活動や社会経験などによる多くの人と接する機会の確保のため、正規の学習時間での実習を心がけている。

#### 方法⑤ 学生の主体的活動サポート

学生がグループを作り、義肢装具啓蒙活動を行っており、そのサポートをしている。具体的には、毎年、競技用義足体験イベントを中心とした、一般の方への義足の陸上競技周知の活動を行う夢プロジェクトへ応募し採択されているが、企画段階からプレゼンテーション内容へのコメント、実施に際しての引率対応などで、活動促進へ対応している。コロナ禍で活動が思うように進まなかったが、本年度は、道内各地で模擬義足体験会を実施でき、成果を上げている。また、道内の義足陸上競技団体の定期練習会にも学生が参加して、直接切断者と接する機会を得ており、こちらについてのサポートも行っている。

#### 【評価・成果】

卒業生の義肢装具士協会での委員会活動への参加として、北海道地区研修副委員長や編集委員などで活動している。

夢プロジェクトでの採択や実施など、学生のプレゼンテーション能力、企画力の向上が表れている。また、夢プロジェクト活動や障害者スポーツボランティアなどにより、学生の学校外の団体とのつながりが拡大されている。

#### 【目標】

##### ・短期目標

学生の国家試験の安定的な高合格率が挙げられる。過去の国家試験合否と、国試に向けた学生の取り組みについては、ある程度の方向性を確認しているため、継続して対応していく。(2028年度まで)

##### ・長期目標

義肢装具士協会では、他の養成校の卒業生よりも、卒後比較的早い時期から、本学卒業生が、研修活動の企画などで積極的に活動している。義肢装具学会、リハ医学会などでの活躍も期待したい。そのため、機会があれば適任と思われる卒業生を推薦したり、学術団体での活動の意義を説明するなど、何らかのサポートも必要と考えている。(2030年度まで)